



©Norio Imai, courtesy of Yumiko Chiba Associates

## 「象る、象られる。」

展示作家: 今井祝雄、金氏徹平、木下佳通代、高松次郎、田中敦子、渡辺泰子

会期: 2018年3月3日(土) - 3月31日(土)

※レセプションパーティーは開催致しません。

会場: Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿 #206

営業時間: 12:00-19:00 定休日: 日、月、祝

2018年3月3日(土)より、Yumiko Chiba Associates viewing room shinjukuにて、「象る、象られる。」を開催いたします。

ドローイングは、英語の draw (引く) から来ており、線を引くことを意味します。

デザインや設計の世界では、製図、図面などの意味で、美術用語としては、一般にデッサンや素描と同じ意味で使われてきましたが、どちらも同様なのは、何等かの目的のために計画的に行われ、何かの下絵となっていることです。

線を引くという行為によって描かれたものは全てドローイングと言えますが、本展で展示されるドローイングは、目的のために描かれたものではなく、それぞれの作家が頭で思い描いたもの、目には見えないものを、空間に象ろうとする行為によって現れたものです。

それは、本質を抽象的に捉えながら、物事を形象化しようとする試みであり、彼らが思考した証拠を残すことでもあります。ドローイングそのものが、そうした行為の印なのです。

本展では、今井祝雄、金氏徹平、木下佳通代、高松次郎、田中敦子、渡辺泰子がドローイングという行為によってその思考をどう象ったかを、ぜひご覧ください。

**■作家略歴(五十音順)****今井祝雄(Norio Imai)**

1946年大阪市に生まれる。元具体美術協会会員。1966年、第10回シェル美術賞一等賞受賞。以来、内外の展覧会に出品。新大阪駅前や関西文化学術研究都市ほかにパブリックアートを制作、大阪市都市環境アメニティ表彰。最近の主な展覧会に、「Japanese conceptual photography from the 70's」(Galerie Christophe Gaillard+Galerie 1900-2000/パリ、2017)、「今井祝雄 Retrospective - 方形の時間」(アートコートギャラリー/大阪、2016)、「白のイベント×映像 1966-2016」(ユミコチパアソシエイツ/東京、2016)、「Performing for the Camera」(テートモダン/ロンドン、2016)等がある。著書に『白からはじまる—私の美術ノート』(ブレンセンター)、『デイリーポートレート-四半世紀・記憶の日記』(スタジオワーク)、『オン・ザ・テーブル・パフォーマンス・イン・ブック』(樹花舎)、『NORIO IMAI』(Axel and May Vervoordt 財団)、『タイムコレクション』(水声社)等がある。

**金氏徹平(Teppeï Kanouji)**

1978年京都府に生まれる。京都市在住。2001年京都市立芸術大学在籍中、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート(ロンドン)に交換留学。2003年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。現在、同大学彫刻専攻講師。日常の事物を収集し、コラージュの手法を用いて作品を制作。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、一貫して物質とイメージの関係を顕在化する造形システムの考案を探求。個展「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、2016)、「四角い液体、メタリックなメモリー」(京都芸術センター、2015)、「Towering Something」(ユレックス現代美術センター、2013)、「溶け出す都市、空白の森」(横浜美術、2009)など国内外での展覧会のほか、舞台美術や装丁も多数。あうるスポットプロデュース「家電のように解り合えない」(2011)、KAATキッズ・プログラム2015 おいしいおかしなおしほい「わかったさんのクッキー」(2015-2016)での舞台美術をはじめ、自身の映像作品を舞台化した「tower(THEATER)」(ロームシアター京都サウスホール、Kyoto Experiment 2017)では演出を手掛ける。

**木下佳通代(Kazuyo Kinoshita)**

1939年神戸市に生まれる。1962年京都市立美術大学西洋画科を卒業。1963年から京都アンデパンダン展に出展。1965年河口龍夫、奥田善己らによって結成されたグループ〈位〉と行動を共にする。1973年頃から写真を用いたコラージュやドローイングを発表し始め、1977年第13回現代日本美術展に出品した「77-D」で、兵庫県立近代美術館賞を受賞。国際的にも評価され、1981年にはドイツ・ハイデルベルクでも個展を開催した。1982年頃からは再び油絵に取り組み、力強い筆線と鮮やかな色彩による画面構成を試みた。時間や空間を、平面上に描くことによってとらえ直す姿勢は、その初期から一貫している。最近の主な展覧会に、「Japanese conceptual photography from the 70's」(Galerie Christophe Gaillard+Galerie 1900-2000/パリ、2017)、「等価に存在する何か。」(ユミコチパアソシエイツ/東京、2017)等がある。

**高松次郎(Jiro Takamatsu)**

1936年東京都に生まれる。1958年東京藝術大学絵画科(油画専攻)卒業。同年の第10回読売アンデパンダン展へ作品の出品を始める。1962年に中西夏之、川仁宏らと共に「山手線のフェスティバル」と呼ばれるハプニングを行い、翌1963年には中西、赤瀬川原平らと前衛芸術グループ「ハイレッド・センター」を結成し、数多くのパフォーマンスを行った。高松の作品は初期の「点」「紐」と呼ばれるシリーズから、その後「影」、「遠近法」、「波」、「弛み」、「単体」、「複合体」、「平面上の空間」、「形」など様々な作品展開を見せるが、物質、実体、言葉、空間についての思考は一貫しており、それを検証するかのよう作品を制作し続け、1998年に亡くなるまで、日本におけるコンセプチュアル・アートに大きな影響を与えた。

**田中敦子(Atsuko Tanaka)**

1932年大阪市に生まれる。1951年4月に京都市立美術大学(現・京都市立芸術大学)に入学するが、同年秋頃に退学し、かつて通ったこともある大阪市立美術館付設美術研究所に入所する。その後、白髪一雄、村上三郎、金山明らが結成した「0(ゼロ)会」に1953-54年頃参加。1955年、具体美術協会に入会。同年の第1回具体美術展に《ベル》、翌年の第2回展に《電気服》を出品。後にその先駆性を高く評価される。1965年、具体美術協会退会。その後も個展などで活動を続ける。2005年、奈良にて死去。芦屋市立美術博物館、東京都現代美術館の他、米国のグレイアートギャラリーや英国のアイコンギャラリーなど海外の美術館でも個展が開催される。(大阪新美術館建設準備室ホームページより引用)

**渡辺泰子(Yasuko Watanabe)**

1981年千葉県に生まれる。武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻油画コース修了。2017年、第28回五島記念文化賞美術新人賞受賞。映像、羊毛フェルト、写真などを中心に、複数のメディアを用いて制作、発表。デビュー当時より宇宙空間の移動や未知なものとのコンタクトをテーマに持ちながら、どこか彼方の場所と今いる場所を折り重ね、独自の世界を展開してきた。近年は個人の作家活動と並行して、同年代の作家との共同企画、演劇とのコラボレーション、自主企画展覧会に天文学者を呼んだトークの開催等、ジャンルや個人を越えた活動も積極的に行う。主な展覧会として、「アートいちばら2016春」(旧里見小学校/千葉、2016)、「断片から景色」(アキバタマビ21/東京、2016)、「夕方帰宅してみると」(milkyeast/東京、2016)、「WOW!シグナル」(GALLERY SIDE2/東京、2015)、「カメラのみぞ知る」(HAGIWARA PROJECTS/東京、2015)、「Paper Object Festival」(Kalcienia iel/ラトビア・リガ、2014)、「地上より」(GALLERY SIDE2/東京、2013)、「虹の彼方」(府中市美術館/東京、2012)等がある。

**【本展に関するお問合せ】**ぜひ貴社にて御紹介くださいますようお願い申し上げます。画像データの御依頼等は下記までご連絡下さい。

ユミコチパアソシエイツ 担当:鈴木

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 [Te] 03-6276-6731 [e-mail] info@ycassociates.co.jp

[website] www.ycassociates.co.jp [営業時間] 12:00-19:00 [定休日] 日・月・祝日